

地震発生時の行動パターン (地震から身を守るために)

緊急地震速報が放送される

- ※震源からの距離などによって、揺れる前に速報が届かない場合があります
- 周囲の状況に応じて、あわてずに、まず身の安全を確保する
 - 自宅では……頭を保護し、丈夫な机の下などに隠れる
あわてて外に飛び出さない
 - 外出先では……係員や上司・先生などの指示に従う
落ち着いて行動し、あわてて出口に走り出さない
 - 歩いているとき……ブロック塀などの倒壊に注意
看板や割れたガラスの落下に注意し、ビルのそばから離れる
 - 自動車に乗っているとき……あわててブレーキをかけない
ハザードランプを点灯し、揺れを感じたらゆっくり停車
 - 電車に乗っているとき……つり革、手すりなどにしっかりつかまる



地震発生直前

1~2分

3分

5~10分

10分~数時間

~3日くらい

安全の確保

- まずは落ち着いて、自分の身を守る
机の下にもぐる
倒れてくる家具や落下物に注意
- すばやく火の始末
コンロの火を消し、ガスの元栓を閉める
- 逃げ道の確保
ドアや窓を開ける
2階建て以上の家では上階が安全、上階にいたらあわてて階下には下りない

周辺の確認

- 隣近所の安全を確認
 - すぐ火の始末
 - 近辺に火災はないか
 - 余震に注意
- 火が出ていたら
- 大声で知らせる
 - 消火器を使用する
 - バケツリレーで初期消火

協力して、消火、救出活動

- 自分たちで手におえない場合は、消防隊にまかせる
 - 簡単な手当は自分で
- ※普段から心がけて応急手当を身につけておきましょう。

外部からの救援が届くまで

- 生活必需品は備蓄でまかなう
- 損傷を受けた家には入らない
- 役場から発信する情報に注意
- 余震に注意

避難生活

避難生活では

- 自主防災会を中心に行動を
- 集団生活のルールを守る
- 助け合いの心を持つ

家族の安全確認と避難準備

- 火元を確認・初期消火
 - 家族の安全を確認
 - 靴を履く
 - 非常持ち出し袋を取り出す
- 閉じ込められたら
- 大声を出して外部に知らせる
 - 手元にある大きな音の出そうなものを叩いて外部に知らせる

情報の収集と避難

- ラジオをつける
……デマや誤った情報に惑わされない
- 役場や自主防災組織の情報確認
- 電話はなるべく使わない
……安否確認は伝言ダイヤル171で
- 家屋倒壊の危険があればすぐ避難
……ガスの元栓、ブレーカーを切る車では避難しない
ブロック塀の倒壊、自動販売機の転倒、看板やガラスの落下、がれきに注意
行き先メモを目立つ場所に残す
子どもを学校などに迎えに行く

わが家の地震対策

地震の負傷者の半分近くが「家具類の転倒や落下物」で負傷しています。自分の周りの危険箇所を見直してみましょう。

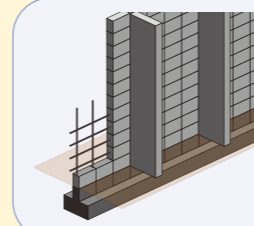
家のまわりのチェックポイント

窓ガラス

- 飛散防止フィルム等を貼る

ブロック塀・門柱

- 鉄筋が入っていないものや、基礎部分が地中にしっかりと固定されていない塀や門柱は補強する
- ひび割れや鉄筋のさびは修繕する



- 高すぎないか
- 厚さは十分か
- 控え壁があるか
- 基礎があるか
- 傾き、ひび割れがないか
- 鉄筋が入っているか

屋根

- 屋根瓦のひび割れやはがれ、ずれは補強・修理する
- アンテナはしっかりと固定する

ベランダ

- ベランダは緊急時脱出口にもなるので常に整頓を
- 落下の危険がある場所に植木鉢や物干しざおを置かない

プロパンガス

- ガスボンベは鎖でしっかりと固定する

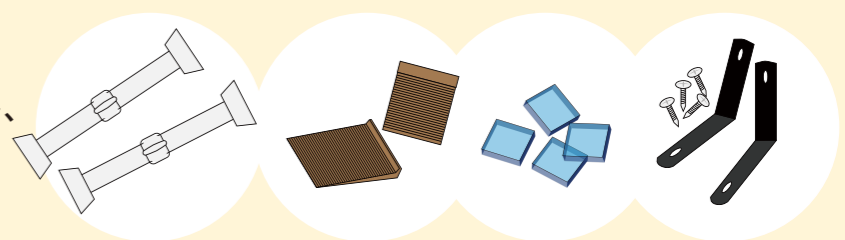
家具固定のポイント

家具を固定する壁は、中に**さん**のところに金具を打ちましょう。壁の場所は施工図面で確認できますが、ない場合は壁を軽くノックしてみ、音で確認することもできます。(固いコンコンという音のする場所は壁があると考えられます。)

固定器具の種類

L字金具、つっぱり棒、家具固定ベルト、くさび板、ワイヤー、チェーン、ジェル状固定シート

※ホームセンター等で入手できます。



各種補助金 (令和4年3月現在)

町では、地震による被害を少しでも減らし、安心して暮らしていただくために、下記の助成事業を行っています。詳しくは、総務課防災安全係にお問い合わせください。

- 木造住宅耐震診断士派遣事業
- 木造住宅耐震改修事業【本格改修・簡易改修・耐震シェルター設置】
※昭和56年5月31日以前に着工されたものが対象となります。
- 家具転倒防止器具設置事業
- ブロック塀等対策補助事業

